

6. 2023 年度研究運営委員会活動報告

研究運営委員会

委員長 大原美保（東京大学）

研究運営委員会では、地域社会の安全性の向上に関する学術・文化・社会の進歩発達に寄与することを目的として、学会が自主的に実施する研究（企画研究）と、外部からの委託申し出によって行う研究・調査（受託研究）の運営を行っています。2023 年度の下記の 3 つの企画研究小委員会の活動概要を報告します。2024 年度も、これらの研究小委員会が継続して活動を行っています。

■企画研究小委員会

(1) DE&I 防災研究小委員会（2023-2025 年度）

主査：小山真紀（岐阜大学）

本研究委員会では、DE&I(Diversity, Equity and Inclusion) 防災の現状と課題、実効的な対策とそれを進める方策などについて、現地調査に基づいて明らかにする。現地調査とオンライン勉強会を開催する。勉強会は委員会メンバーだけでなく、関係する領域の研究者や実践者に広く公開し、研究的な成果だけでなく、促進に向けたネットワークを段階的に構築する。先進的な取り組みの調査とその結果を研究者・実践者と共有するための勉強会を行うことで、実践的な研究を行うことを目的とする。

2023 年度は、2024 年 2 月 4 日から 6 日まで、1 月 1 日に発生した能登半島地震の現地調査を行った。被災状況の確認と避難所環境などについてインタビューを実施した。

（文責：小山真紀 主査）

(2) 社会に役立つ防災情報システム研究小委員会（第 4 期）（2021-2023 年度）

主査：浦川豪（京都大学）

本研究委員会は「電子情報通信学会 情報・システムソサイエティ」と共同で、東日本大震災の長期的な復興、並びに次なる災害を想定し、若手研究者を中心とした人材のネットワークを構築すると共に、様々な情報システム技術を連携・融合させることで、情報混乱期における現場対応を支援する防災情報システムのあり方について研究を進めている。

2023 年度は、2024 年 3 月 29 日（金）13:30-16:30 に、地域安全学会・電子情報通信学会共催により第 13 回目となる研究会を京都アカデミアフォーラム大会議室 D で開催し、6 題の研究発表が行われ、活発な意見交換が行われた。総合討議においては、2024 年能登半島地震後の災害対応 DX 支援に関する取り組みが共有され、現場で役立つ情報システムについて議論された。

<https://sites.google.com/site/drisjw/event/dris13>

引き続き、2024 年度も継続することとなり、活動を進めていく予定である。

（文責：浦川豪 主査）

以上